

「感謝の心をもって」

山添村立山添中学校 二年

井窪 勝樹

僕の父は、環境を分析する会社で営業の仕事をしている。そんな父なら水について詳しいのではないかと思ひ話しかけてみた。

「微生物が汚れた水をきれいにするってほんまなん。」

「そうらしいな。」

「じゃあさ、浄水場とか見てて最近の設備はすごいなあとか思ったことある？」

「そこまで見たことないなあ。」

父は営業の仕事をしているので、実際にどのような設備が使われているのか、よく知らないようだ。

ある日のこと。外で車を洗っている父のそばで、僕はその様子を見ていた。そのときふと僕の中で疑問がわいた。「一回洗車するのにどのくらいの水が必要なのだろう。」今ままでそんなことを考えたこともなかった。

「車、どれくらいの時間洗っていたの？」
まず父に何分くらい洗ったか聞いてみた。

「一時間くらい洗ったけど、水を出していたのは、二十分くらいかな。」

二十分間、水を出しっぱなしにすると、どのくらいの量を使っていることになるのだろう。僕は母に手伝ってもらい、一分間出しっぱなしにすると水は何リットル出ているのかチェックした。結果は十リットルであった。一分間で十リットルということは、単純計算で二十分間では二百リットルの水を使っていることになる。この二百リットルとは一人が一日に使う水の量とほとんど変わらないのである。

次の日僕は吉野の天川村で釣りをするため、早朝から家を出発した。川は透き通っていて魚の悠々と泳いでいる姿が見られた。ど

こを見てもゴミ一つない川で、これなら魚も安心して暮らせるだろうと思った。

美しい自然。きれいな川。澄んだ水。これらの環境を守っているのは誰か。川の周りに住んでいる人、ボランティアで環境を守る取り組みをしている人、その他多くの人の行動や協力により川の美しさが保たれている。そして、僕のようにそこを訪れた人たちは、その美しい環境を汚してしまわないように気をつけて行動しているから、ゴミが残されることもないのだ。

話は変わるが、われわれ人間は約五十六%が水でできている。私たちは生きていくために、毎日約二リットルもの水を食事や飲み物から体内に取り入れている。

私たちが生きていく上で欠かせない「きれいな水」。一つだけ言えることは、「いろんな人の努力が水をきれいにしている。」ということである。

僕は目に見えない部分で努力をしてくださっている人々に感謝をしたい。僕たちが車をきれいに洗えるのも、水を安心して飲めるのも、水に不自由を感じることなく生活できる

のも、全てダムを作る人、水の汚れをとる人、水を送る人、水をきれいなまま保存してくれる人、そういった人たちの努力のおかげである。

今私たちができることは「生命の源」である水を守ってくださっている人たちに感謝して大切に使うことなのだ。僕は思う。